

1. あいさつ

神奈川県立産業技術短期大学校 校長 松永 和彦



本校並びに職業能力開発推進協議会の年間の研究成果と事業報告をまとめた「アニュアルレポート2023」の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類から5類へと変更されました。これからは、「ウイズコロナ」で社会活動が通常に戻り、経済状況の回復を期待するところです。世界に目を向けるとロシアによるウクライナ侵攻が大きな影を落としており、早期の平和的な解決が望まれます。このような中で経済状況も物流問題、半導体問題、資源問題などから厳しい状況となっております。しかし、こうした中 AI の分野では、生成型 AI などの出現で画期的に状況が変わろうとしております。ものづくりの産業界で対応する地球環境問題の解決、特に脱炭素社会構築に必要な技術開発においても、今後 DX や IoT 等の技術の重要性が増していくと考えられることから、授業内容に取り入れた取り組みを進めて参ります。

職業能力開発推進協議会の令和5年度の活動として、第一回理事会、総会、講演会、優良従業員表彰式、異業種交流会を、5月17日に崎陽軒本店で開催いたしました。特に総会、異業種交流会は、4年ぶりの対面での開催となりました。しばらく「ウイズコロナ」としてコロナと共存していく事を考えますと、新しい方法を導入しつつ、対面によるコミュニケーションの利点も活かしながら、様々な行事を安全に、かつ効果的に開催して参りたいと思います。

本校に目を転じますと、3月17日の卒業式、4月5日の入学式を、「ウイズコロナ」下の学校行事として無事開催することができました。また、5月28日にはスポーツフェスティバルが開催されましたが、学生自治会が主体的な運営を行い、学生同士の絆の構築が出来ました。学生の就職活動に関しましても、会員企業の皆様にはインターンシップの受け入れ、情報交流会・合同企業説明会などの面で多大なご協力を頂いており、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

このほか、校としての取り組みとしては、各種競技会への参加、求職者・在職者の方を対象とした訓練の実施、講師研究による校の魅力「ウリ」の提案、中小企業の人材育成・職業訓練への支援にも力を入れております。令和2年から再整備を進めてきた「西キャンパス」は、今年2月に無事竣工式を執り行い、運用を開始しております。「かながわ IT 人材教育モデル P-TECH」につきましても、来年4月の第一期生受入れに向けて順調に進行しております。

一方、本校の最も大きな課題として、入学生の定員割れの問題があります。今年度の入学者数は、137名と定員の69%まで落ち込みました。このことは、これまでの取組だけでは不十分なことを示しており、学科の見直しを含めた基本的な改革の必要性が共有され、今年度から神奈川県産業労働局長・政策課題として、新規に「産業技術短期大学校の今後の方向性」として取り組むことになり、「産業技術短期大学校の在り方検討部会」を立ち上げ活動を開始しました。この活動は、これまで取り組んできた「KCIT*あり方」が基本となっております。

これからも皆様のご意見を伺い、本校の事業内容のさらなる充実を図って参りますので、引き続きご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

*:KCIT:本校の英語名称 Kanagawa Prefectural Junior College for Industrial Technology の略称

産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会

会長 野中 啓孝



令和5年5月17日に持たれました令和5年度第1回理事会の協議を経て、当協議会の会長に就任しました成幸工業株式会社の野中です。これまで平成20年度から長い間、会長を務めてこられました安藤孝男様の方針を継続するとともに、私なりに新しいことにもチャレンジしていきたいと考えておりますので何卒よろしくお願いたします。

さて、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症対策ですが、令和5年5月8日から5類に位置付けられているように少しずつですが、人の往来や物流の移動も回復してきたように思います。

こうしたなかで、2023年5月には、中小企業庁から「2023年版中小企業白書・小規模企業白書の概要」が発表されました。このなかの総論の部分で本協議会に関係することをご紹介します。「人手不足対策として業務のデジタル化、従業員の多能工化について」等の様々な事例が報告されています。

本協議会は、短大校が推進する教育訓練への支援、会員企業の人材育成に関する支援、会員相互の情報共有を目的に活動しています。会員数は、令和5年6月15日現在で377会員となり、多くの会員に活動を支えていただいております。

「with コロナ」ではありますが、これまでと同様に感染対策を実践しながら、協議会の運営を進めて参りますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このレポートを通じて、短大校と推進協議会のこの1年間の活動状況についてご理解を深めていただけることを願っております。

